

複数の工夫で 生態系保全活動への参加者を獲得

このはま しげんかんきょう
滋賀県：木浜の資源環境を守る会

○団体の活動目的と経緯は？

【目的】

地域の生態系の保全や自然に触れ合うことによる子供たちへの環境教育

【経緯】

農業組合の下部組織である村づくり会が米の特徴を出すために無農薬米にチャレンジすることとなった。施設の維持管理活動に加え、住民参加のイベントなどの活動を実施している。



浄化池と浄化型幹線排水路のイラスト

○環境保全施設と関連情報

【環境保全施設】循環型水路（浄化型幹線排水路 1.4km、浄水池 0.47ha）

【活用した事業等】県営水質保全対策事業

【保全対象生物】在来種の鮎（特にニゴロブナ）・もろこ・鯉、ヨシ原を利用する生物、水路を利用する生物（シジミ等）等

○どんな生態系保全の取組を実施？

1. 整備活動（ゆりかご水田）
 - ①魚道周辺の草刈り等の維持管理活動
 - ・地域の子供会等と連携して実施
2. 交流活動の開催（約 150 名が参加）
 - ①木浜ウォーク
 - ・施設周囲を歩きながら、水生植物や生きものの観察、施設の果たす役割などを紹介
 - ②魚つかみ
 - ・子供たちを中心に浄化池に生息している魚を捕獲するなどの体験型の環境教育
3. 芝桜の植栽と維持管理
 - ①草刈り等の維持管理
 - ・20 人前後で約 3 時間の作業を実施
 - ・防草シートの設置
4. 環境保全型農業の推進
 - ①減農薬米の栽培・支援
 - ・J A 滋賀推奨の「環境こだわり米」として、周辺農家への呼掛けを実施



木浜ウォーク



保全施設（浄化池）

○継続した活動でこんな効果が！！



浄化池での魚つかみ

■地域の生態系保全への理解

・活動の継続及び活動の説明会を開くことで、地域住民が保全活動に一定の理解を示してくれるようになっている。

■生きものの数や種数の保全に貢献

・生きもの観察会等で確認される生きものの数や種数などは、基本的には維持されており、保全活動の効果の1つと考えられる。

○課題・苦労した点

■参加者・担い手等の不足

・構成員の高齢化が進み、さらに草刈等の維持管理は平日の日中の作業のため、人数が集まりにくい。

■イベント等のPR活動

・交流活動などへの参加者をどのように集めるかが課題であった。

○工夫した点

■維持管理作業者に補助金を利用した日当配布

・作業の協力を得やすくするために、補助金を利用して維持管理作業に日当を支払っている。

■子供やその親への参加協力に力点を置く

・体験を通じて地域のことに関心を持ってもらえるように、施設の説明を兼ねたイベントなど、子どもたちだけでなく、その親に参加してもらえることに力点を置いた。

■複数の関係団体からの呼掛けの協力

・土地改良区、自治会などに呼びかけをもらい、地域住民との交流活動に多くの子どもたちの参加を得ている。

○活動の特徴！！

■保全施設の重要性を地域住民と共有

・住民参加のイベント（木浜ウォークや魚つかみ）の際に、ただ楽しむだけのイベントで終わらず、施設の役割や機能について説明して、地域の環境保全に対する意識を共有している。



○団体の概要は？

- ・平成19年度に設立され、活動エリアは滋賀県守山市木浜地区（旧速野村辺り）である。
- ・任意団体で、人数は約120名。
- ・年間運営費は補助金が100%となっている。
- ・年間活動日数は、約70日である。

